

令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の受賞について

2022年5月25日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）の職員が、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞*を受賞しましたのでお知らせいたします。5月24日に鉄道総研国立研究所において向殿政男会長より受賞者に表彰状を伝達いたしました。

記

1. 令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞

受賞者：鉄道力学研究部
構造力学研究室 主任研究員 徳永 宗正（とくなが むねまさ）

受賞業績：「地震動激甚化と列車高速化に対する鉄道橋梁構造に関する研究」

2. 研究概要および受賞者コメント

【研究概要】

鉄道システムは、車両、軌道、構造物、電車線路設備等の多くの要素から構成されるが、これら構成要素間の動的相互作用には未解明な現象が多く、無視もしくは単純化されて扱われてきた。

そこで受賞者は、近年の地震動の激甚化や列車高速化に対応した合理的な橋梁構造を実現することを目的として、特に影響が大きい橋梁と車両間、橋梁と防音壁間、隣接橋梁間の動的相互作用に着眼して、橋梁や鉄道車両の動的応答メカニズムなどを解明した。これに基づき、地震時および列車通過時における、防音壁を含む橋梁や車両の動的挙動の評価手法、さらには橋梁の設計手法を提案した。

本研究成果は、国内の鉄道分野の安全性や利便性の向上だけでなく、海外の高速鉄道プロジェクトに関連した国際競争力の向上に貢献することが期待されます。

【受賞者のコメント】

このような栄誉ある賞を受賞することができ大変光栄です。今回の受賞は、鉄道総研の充実した研究環境のもと、恩師、諸先輩、同僚はじめ多くの方々より、熱心なご指導、ご助言をいただいたおかげであり、この場を借りて、心より感謝申し上げます。

近年頻発する大規模地震や、新幹線の高速化に対応するために、鉄道橋梁やその他の鉄道システムの構成要素間の動的相互作用について、従来よりも詳細な現象解明が求められています。このような中で、鉄道の分野を横断した本研究成果は、今後の鉄道の発展の一端を担うものであると考えております。

今回の受賞を励みとし、鉄道のさらなる発展と豊かな社会の実現に貢献できるよう、より一層の精進を重ねてまいります。

参考（文部科学省）

「令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者の決定について」

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00989.html

*若手科学者賞とは、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象とした表彰です。
（「令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞候補者の推薦について」より）



写真 受賞者への表彰状の伝達（於：鉄道総研国立研究所）
（中央：徳永宗正主任研究員（受賞者） 右：向殿政男 鉄道総研会長
左：渡辺郁夫 鉄道総研理事長）